

令和4年度：対エルサルバドル共和国 草の根・人間の安全保障無償資金協力



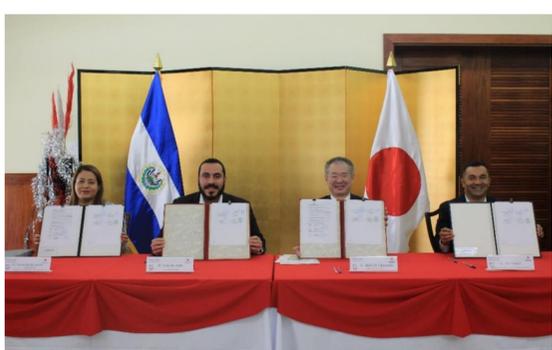
ヌエバ・グアダルペ国立病院 透析センター建設計画署名式



2023年3月7日、有吉勝秀駐エルサルバドル日本国大使は、フランシスコ・アラビ保健大臣、ヌエバ・グアダルペ国立病院マリツァ・マリソル・スラ病院長、NGO カンポ財団アレクシ・ロメロ・エグゼクティブディレクターとともに、ヌエバ・グアダルペ国立病院透析センター建設のための贈与契約に署名しました。本計画にかかる総費用は約282,000米ドルで、日本からの支援総額は176,031米ドルとなります。

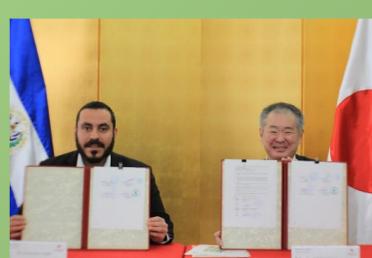
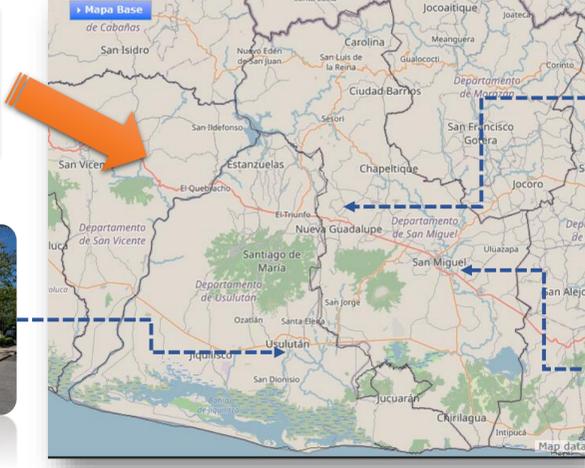
サンミゲル県にあるヌエバ・グアダルペ国立病院で実施されるこの新規計画では、エルサルバドルの国民病の一つである慢性腎臓病（CKD）患者を対象としたもので、同国東部地域では、年間延べ1,500人が本治療を必要としています。本計画は同患者及びその家族に裨益効果がもたらされます。

この計画には、当初からNGOカンポ財団が技術的な支援しています。



現在、同国東部地域では、サンミゲル県のサン・ファン・デ・ディオス・サンミゲル国立病院及びウスルタン県のサン・ペドロ・ウスルタン国立総合病院で、慢性腎臓病（CKD）患者の治療が行われていますが、近年、患者数増加により、設置が不足しているのが現状です。特にこの病気は、低所得者世帯に多大な経済的負担をもたらすもので、問題は非常に深刻です。

このニーズに応えるため、保健省管轄のヌエバ・グアダルペ国立病院の運営委員会から、在エルサルバドル日本大使館に、慢性腎臓病（CKD）患者のための透析センター建設資金の援助要請が出されました。



ヌエバ・グアダルペ国立病院の透析センター建設は、すべてのエルサルバドル人の健康にとって、大きな一歩となることを確信しています。今回の署名は、始まりに過ぎず、保健省やNGOカンポ財団などの協力により、本計画がすぐに現実のものとなることを確信しています。

近年、エルサルバドルでは腎臓病が増加していますが、この透析センター建設が、エルサルバドル人に安心できる医療環境を提供できることを信じております。

保健省は、日本の皆様が長期にわたりエルサルバドル人のための保健分野支援してくださることに、喜びと感謝の意を表します。本契約締結により、ヌエバ・グアダルペ国立病院に透析センターが建設され、透析を必要とする患者のケアに必要な設備が整います。それにより、患者がより通常の活動に適應でき、自律性や独立性の高い生活ができるようになります。

駐エルサルバドル日本国大使
有吉 勝秀

保健大臣
フランシスコ・アラビ博士

在エルサルバドル日本国大使館が「草の根・人間の安全保障無償資金協力」を通じて実施しているこれらの案件は、「人間の安全保障」の概念である「人間一人ひとりに着目し、生存・生活・尊厳に対する広範かつ深刻な脅威から人々を守り、それぞれの持つ

豊かな可能性を実現するために、保と能力強化を通じて持続可能な個人の自立と社会づくりを促す考え方」のもと、エルサルバドル人、特に国内で最も脆弱な地域の医療環境の質を改善しようと試みているものです。